



災害時の乳児食の備え



災害時には、交通網の遮断などにより、粉ミルクや離乳食などの特殊な食品が手に入りにくくなることが想定されるため、少なくとも3日から1週間分を備蓄することが推奨されています。

○ミルクの備え

災害時においても、飲み慣れた母乳やミルクで普段と同じように授乳ができることが大切です。液体ミルクや粉ミルクを活用できますが、液体ミルクは、水やお湯がなくても調乳の必要がなく、すぐに飲ませることができ、ため非常時に便利です。粉ミルクを使用する場合は、哺乳ビンや紙コップ、使い捨てのスプーンなどを備えておくことが役立ちます。また、調乳には、多くの飲料水が必要になるため、この時期は普段より多めに備えておきましょう。



○離乳食の備え

離乳食は、さまざまな調理器具を使用して作るため、災害発生時、ライフラインが停止すると、調理できないことが想定されます。そのため、レトルトの離乳食を少なくとも2週間分、備蓄しておくことが推奨されます。レトルトの離乳食は、月齢が進んでも、前の月齢のものを工夫して利用できるため、幅広く備えておくことが安心です。普段からレトルトの離乳食を食事に取り入れ、食べ慣れておくことも大切です。

○食物アレルギーにかかる備え

原因物質（アレルゲン）が含まれていない食品を備えましょう。

（アレルギー対応ミルクやフリーズドライの離乳食など）

また、災害時に支援を受けやすくするためにも、食物アレルギーがあることを周囲の人に伝えておくことが大切です。

参照：農林水産省ホームページ 「災害時に備えて食品の家庭備蓄を始めよう」



ミルクを備蓄しています

箕面市では、災害発生時に避難所などで使用できるよう、乳児用ミルクを備蓄しています。公立保育所・認定こども園では備蓄しているミルクを日常的に使用し、使った分を買い足す「ローリングストック方式」で常に必要な量を確保しています。

